平成31年度第４回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和元年７月２６日（金）午後１時～午後４時

場所：白井市役所本庁舎２階災害対策室２

出席者：【委員】

・第１部

関谷　昇会長、助友　裕子副会長、手塚　崇子委員、鈴木　康弘委員

秋本　茂雄委員、藤田　均委員、近藤　恭子委員、山本　昌弘委員

・第２部

関谷　昇会長、助友　裕子副会長、黒添　誠委員、野水　俊夫委員、

鈴木フミ子委員、西飯　峰委員、橋本　哲弥委員

【事務局】

中村企画財政部長、永井企画政策課長、冨田主査、迎主査補

・第１部

岡本健康子ども部長、小泉教育部長学校政策課長事務取扱、山口子育て支援課長

池内保育課長、佐藤健康課長、鈴木教育部参事教育支援課長事務取扱

石戸生涯学習課長が同席

・第２部

川上市民環境経済部長、宇賀総務部長、豊田福祉部長、岡本健康子ども部長

高石都市建設部長、小泉教育部長学校政策課長事務取扱、岡田市民活動支援課長

寺田危機管理課長、金井障害福祉課長、伊藤高齢者福祉課長、佐藤健康課長

東山都市計画課長、石戸生涯学習課長が同席

傍聴者　４名

１．　開会

２．　議題

■第１部■

（１）評価の実施について

戦略１－３　子育てしたくなるまちづくり

【副会長】

会長が到着するまで、議事を進行させていただきます。

それでは、戦略１－３子育てしたくなるまちづくりの評価に入ります。

総合評価の部分を中心に、委員それぞれの評価について説明をお願いします。

【委員】

「取組状況」については、「目標実現に資する取組となっているか」と「市民のニーズに即した取組となっているか」という項目はＢ評価としました。「他分野の市民等と必要な連携が図られているか」という項目は、白井市だけではなくて、他の市町村も同様ですが、福祉分野と学校教育の連携や、市民活動との連携が図れる部分があると思い、Ｃ評価としました。

「成果」については、今後の発展を考えてＣ評価にしました。というのは、「１次評価の進捗状況の評価は妥当か」という項目で、今の状態でよいと思ってはいけないので、これからもっとやっていかなければいけないという意味を込めてＣ評価としました。

「課題や今後の方向性」については、「今後の課題が的確に捉えられているか」という項目は、白井がどういうところを目指すのかというビジョンがわからないところがあると感じたのでＣ評価に、「今後の方向性は妥当か」という項目は、頑張っているということでＢ評価にしました。「わかりやすさ」については、市民にわかりやすいという部分では、もう少し具体化した方がいいと思ったので、発展的なことを見越してＣ評価とし、総合評価はＣ評価としました。

私が今回、一番言いたいことは、連携や横の関係をつないでいくシステムの構築ができれば、さらによく見えてきたり、今本当に求められているものがもっと絞られてくるのではないかということです。このことから、今後に向けた改善の提案等については、福祉と教育の連携というところと、市民活動と行政の横のつながりをつくるシステムの構築ということを挙げたいと思います。

【委員】

「取組状況」については、「目標実現に資する取組となっているか」、「市民ニーズに即した取組となっているか」と「他分野や市民等と必要な連携を図られているか」という項目については、いずれもＢ評価としました。おおむねできているのではないかと評価をしております。この施策の四つの取組がそれぞれ進捗していると思います。

「成果」については、「目標実現に向けて成果は上がっているか」という項目はＢ評価です。ただ、「１次評価の進捗状況の評価は妥当か」という項目はＣ評価にさせていただきました。その根拠は、ちょっと気になったことが、待機児童の数が増えていることです。その状況の中で、１次評価で進捗状況を「おおむね順調」としているのは、私としてはちょっと承服しかねないので、Ｃ評価とさせていただきます。

「課題・方向性」ですが、四つの取組はよくできていると思いますが、全ての問題点が的確に捉えられているかというと、もう少しという想いがありますのでＣ評価とさせていただきます。「今後の方向性は妥当か」という項目は、妥当ということでＢ評価にしました。

「わかりやすさ」については、「市民にわかりやすい記載となっているか」という項目

で、少し気になることは、子育てしやすいまちと思う世代の割合が低下しているということで、これは市民にきちんと取組が把握されていない、認識されていない、ＰＲ不足であると思ったので、Ｃ評価にしました。

施策の総合評価としては、Ｂ評価としました。特に、私は勉強会の中で、子育て支援の部分について、箱物ではなく仕組みをつくるということを言われたことが、すごく心に響いています。この方向性が大事だと思います。箱物をつくるのではなくて、白井独自の仕組みをつくっていくという方向性が正しいと思いますので、Ｂ評価といたしました。

【委員】

状況をまだよく見ていないというところがありますが、職員の皆さんも一生懸命取り組んでいるというところは目に見えておりますので、全体的にはＢ評価が中心になると思っています。

私の住んでいるマンションの中でも、子育て世代のお母さんが大勢いらっしゃって、その中でも、いろいろご意見を聞いたりしますが、生活水準的にもう少し楽になるといいという話を聞いたりもしています。私自身も、こうした問題点や、市民などとの必要な連携が図られているかということを考えると、総合的にはＢとＣの間の評価になると考えております。

【委員】

まず全体として、総合評価を言わせていただきますとＢ評価です。ただし、イメージ的にはＢマイナスと考えていて、その理由は、方向性や取組状況に問題点があるということではなく、１次評価の定量的評価で、複数の実績値が年々下がっているというところが気になるからです。私も白井市の子育て支援に関わらせていただいているのですが、どうして下がっているのかということを一緒に考えていかなければいけないと思う反面で、その原因がよくわからないということでＢマイナスにさせていただきました。定量的評価が、アンケートに答える人の主観によって左右されるものであることが原因かと思ってしまいます。回答者数がもっと多ければよいのですが、母集団が14人と少なすぎるので、そういう定量的評価としていいのかと思いました。この指標が来年度以降上がったとしても、この施策の成果が上がったと捉えることができるかは疑問です。ただし、来年度以降、子育て世代包括支援センターや根地区の公益的施設での新しい保育サービスが始まりますが、今はその準備段階ということもあり、今後それらがどのように運営されていくのかという期待も込めて、Ｂ評価としました。

【委員】

大体、総合評価としてはＣ評価です。というのは、私はニュータウンの方々といろいろなイベントで交流したりしているのですが、一番感じているのは、とにかく人的交流がなさ過ぎることと、地元に関してほとんど無関心であったり、知り得ていないということです。大人が地元に無関心だと、子供も無関心になることが考えられるので、ふるさとに興

味を持つ教育が大事だと思います。

例えば、梨であれば、いろいろ教材として取り組む要素がいっぱいあります。梨の品種は幸水、豊水が主流ですが、そのもとになったのは二十世紀という品種で、それは松戸の13歳の男の子がつくった品種なのです。そういう、教材になり得る要素がこの地域にはたくさんあるので、そのような取組もこれから少しずつやっていかないといけないと思います。

【委員】

総合評価はＢ評価です。内訳に関しましては、取組状況は全てＢ評価、成果に関してはＣ評価とＢ評価で、Ｃ評価にした理由は、単純に数字だけを見るとＤですが、現状を踏まえて総合的な判断をするとＢと考えますので、中間をとってＣ評価としました。

「課題と方向性」についてはＢとＣ評価です。こちらのＣ評価については、子供の教育は白井でというキャッチフレーズのもと取り組んでいますが、それと取組がマッチするかというと違和感があって、「今後の方向性は妥当か」という項目はＣ評価としました。

「わかりやすさ」についてはＣ評価です。北総線の駅に沿線の情報を載せた冊子があって、すごいと思って見ていたのですが、これ誰が見るのだろうと思ったのです。白井に住んでいる方が見るのかなと思ったのです。そもそもこの施策が、今の市民の満足度アップがメインなのか、白井に住む人をどんどん増やしたいというのがメインなのか、誰に対して情報を発信するのがメインなのかということを、今後、考えたいと思いました。あと、私がお母さん達に何か言いたいことあったら教えてよと言ったときに、正直、何も出てこなかったのです。つまり小学校、中学校のお母さん達は現状満足なのだと思います。ただし、まだ赤ちゃんがいるお母さん達に聞いてみると、やっぱりコミュニティの場がないと言っています。ですので、全く縁もゆかりもないところに入って、いきなりコミュニティに入れといわれても無理な話なので、そういう環境づくりや、入りやすい入口をつくってあげるというのが必要だと考えました。そういうことを総合的に判断して、Ｂ評価としました。

【委員】

私は、総合評価がＢです。「取組状況」について、「目標実現に資する取組となっているか」の項目は初めてＡ評価をつけました。理由は、勉強会のときに、課長のお話の中で、こういう層をターゲットに絞ってやることはわかっているのだけれども、まだやれていないということをしっかりと自覚したようなお考えを述べていて、方向性としては、何かいろいろとお考えがあるということがわかりました。まだ着手できていないけれども、考えているという部分がわかったという意味で、それも一つの取組だと考えてＡ評価としました。そして、「市民ニーズに即した取組となっているか」はＢ評価です。これは、一定数の人に対して効果のある取組と考えますが、まだ、取り組めていない層に対する対策は必要だと思います。そういう意味で、「他分野や市民等と必要な連携を図られているか」に

関してはＣ評価です。

「成果」に関しては、Ｃ評価としました。これは先ほどから他の委員もお話ししていましたが、これから成果が上がってくるという期待を込めてのＣ評価です。

課題と方向性に関しては、両方Ｂ評価としました。「今後の方向性が妥当か」については、一定数の人に対する効果はあるけれども、取り組めていない層に対する対策と、もう一つ必要な視点として、現段階でお子さんがいる人だけでなく、子どもを出産する前の人への対策も必要になってくると思います。

「わかりやすさ」についてはＢ評価として、総合評価はＢ評価にしました。

今後に向けての提案ですが、いろいろと取り組めていない層に対する対策に取り組むほど、職員の業務量の増加が見込まれるので、職員への対応を考慮しなければいけないと思います。また、現時点では、子どもがいる人たちへの対策が中心となっているので、子育て前の世代への働きかけができるといいと思います。具体的には、思春期対策などがありますが、これは所管課が教育委員会だと思いますので、横の連携が必要だと考えます。

【会長】

会議に遅れて申し訳ありませんでした。

私の評価ですが、これまでの概要の説明や進捗状況等を踏まえて、さらに、職員とのワークショップ等も踏まえて、非常に熱心に取り組まれているということはよくわかりました。しかし、評価ということになると、私は総合評価をＣ評価としました。Ｂに近いＣ評価というニュアンスではありますが、個人的にはそういう評価です。

「目標実現に資する取組となっているか」という項目について、子育てしたくなるまちづくりをどう考えればいいのかという難しさがあって、シビルミニマム、つまり、必要最低限度の子育て環境をどう整えていくのかという視点と、子育てしたくなる魅力をどう創出していくかという視点の両方が加味された目標になっているので、その辺をどう施策や事業の組み方として意識しているのかという部分が少し曖昧だと思います。

こうした子育て環境の仕組みの充実、そして組織環境の充実という部分で可能な限り漏れのないように、現場に目線を向けた課題の抽出や支援の組み立て、そして、そのつなぎという部分で、もちろん努力はされていると思いますが、白井の子育て・教育の特徴はどういうところにあるのかということを、もっと前面化していいのではないかと思います。つまり白井で子育てするということは、他市で子育てすることと違って、どこに魅力があるのかという部分が見えてこないと、白井で子育てしたくなるということにはならないので、そういう部分が、今の段階ではまだ見えてこないところです。今やっていることが駄目ということではなく、今やっていることに何を加えたら市内外に受けとめてもらえるのかを併せて考えていくことが、今後、非常に問われてくると思います。

「市民ニーズに即した取組になっているか」という項目は、Ｂ評価です。現場の各種委員との連携を図りながら、丁寧に委員の声を酌み取ろうとしている姿勢は高く評価できま

すし、そうした情報も組織の壁にとらわれることなく柔軟に共有していく体制が整っていて、さらに充実させていく姿勢もうかがえましたので、こういう評価をしています。ただ、市民ニーズということを考えた場合に、結婚、出産、保育、学校という一連のつながりの中で、どういうニーズがあるのか、例えば、子育てや保育環境はいいけれども、学校に上がっていく中で、学校教育のほかにプラスアルファの魅力としてどういうものがあるのかということも問われてきます。そういう市民のニーズがどういうところにあって、白井の中でどんな形で満たされることが、市民にとってプラスなのかということも膨らませていくことがあわせて必要になってくると思います。そういう意味で、市民ニーズに応えようとしていることは十分評価できますが、今言ったように白井における教育の個性化という部分が問われてくると思います。

「他分野や市民等と必要な連携が図られているか」という項目は、Ｄ評価です。客観的に見ると、教育や子育てという分野、領域に限られてしまっていると。これは何人かの委員の方々も話していましたが、その分野だけにとどまるのではなく、連携ということが問われていて、そういうつながりの中で、教育や子育ての魅力がつくられていくのかなと。そういう意味では、異分野あるいは異なる業界や系統の団体組織とも積極的な交流や連携を意識的に進めて、情報としてしっかり発信していくという見える化をしていかないと、一定の部分でとどまってしまうと思います。

「成果」については、「目標実現に向けて成果は上がっているか」の項目は実績値のこともあってＣ評価、「１次評価の進捗状況の評価は妥当か」の項目はＢ評価です。これは先ほどから委員の皆さんがおっしゃっていることと同じです。

「課題・方向性」については、「今後の課題、問題点が的確に捉えられているか」の項目はＢ評価、「今後の方向性は妥当か」の項目はＣ評価です。ワークショップや質疑応答でお話を伺うと、どういうところに子育て教育の課題があるかということは十分把握されていて、それに向けた取組や改善もされつつあると思います。しかし、現場の課題に応えていくということは、施策や事業フレームだけで考えていては駄目です。これは従来の総合計画の進捗管理のあり方に及ぶ大きな話ですが、従来の総合計画は行政がやることしか書いてないから、行政がちゃんとやっていれば評価されることになっていました。ただ、これからは、まちづくりあるいは総合計画は、行政がやるべきことだけを描いて、ちゃんとできているかを評価するだけでは絶対足りなくて、もっと市民ベースや事業者ベースでどんな取組ができ、それらの連携でどんなことができるかということが加味されて、現場の課題解決が少しずつ図られていくと思います。今後の行政のスタンスは、制度や仕組みと同時に、そういう行政が直接的にやらなければいけない射程外、制度外の部分も含めて、問題を共有して、行政資源以外の部分を育てて、つないでいくことにも力を入れていくことが問われてくると思いますので、そういう意味でＣ評価としました。

「市民にわかりやすい記載となっているか」の項目はＢ評価としました。

いずれにしても、子育て、教育を今後充実させていく中で、最初に申し上げたよう行政として必要最低限度のシビルミニマムの線を白井市としてどこに引いているのかが問われると思います。

同時に、やはり白井ならではの子育て、教育の魅力とは何かということです。魅力創出という意味で、子育てしたくなるということを市民目線で膨らませることが大事だと思います。学校教育で個性化を図るのは難しいですが、地域との連携など膨らませる部分はあると思いますし、学校教育以外の部分でこんな学びがある、情報がある、つなぎがあるという部分を増やして、市民に白井でこんなことができると思ってもらうことが大事になってきます。

ということで、委員の皆さんの評価結果を伺いましたが、委員８名中、総合評価はＢ評価が５人、Ｃ評価が３人ということです。総合計画審議会の最終的な総合評価を固める前に、意見交換できればと思います。

【委員】

最低限の子育てと魅力のある子育ての話ですが、白井全体を見たときに、白井市内のどこに住んでも同じ環境で子育てできるという考え方も必要ですが、これからの白井の子育て支援の中で、その地区の特色をもっと強調していくという方法もあると思います。

例えば、桜台小中学校は自校式給食ですが、地元の老人会の方と自校式給食を通して親睦会を開いたり、栄養士が地元の食材を使って工夫して、美味しい給食をつくっていて、自校式給食は、桜台の特色の一つになると思っていて、近隣の市と比べても白井市のカラー、強みになると思います。例えば、若い世代がニュータウンで印西市に住むか、桜台地区に住むかと考えたとき、桜台は自校式給食だから、桜台に住もうという方もいるかもしれませんので、良い部分として捉えていいと思います。

放課後子ども教室も同じようなものだと思います。住んでいるところのいい部分を探して、その地区に住む若いお母さんやお父さんに、ここに住み続けるとこういう子育てができるよという後押しができれば、子育ての魅力の一つになると思います。

【会長】

子育て、教育の魅力創出という部分をもっと積極的にという意見かと思います。白井全体でという部分もあると思いますが、もっと地域の特性に見合った子育て、教育のあり方、地域との連携のあり方、個性の出し方というものがあると。桜台の自校式給食については今、いろいろ課題になっているということは私も伺っていますが、それも一つの個性の出し方だし、一方では、もっと合理化を図っていかなければいけないという考え方もあって、いろいろ議論があると思いますが、今のご意見はそういうことも含めて、それぞれの地区の個性をもっと出していくべきだということだと思います。

【委員】

行政だけでは手が回らないこともあると思いますし、市民の方々が取り組まれているこ

ともあると思うので、できる可能性がある人たちをつないで、事業ではなくても、子育てしたくなるまちづくりの内容に含めていくことが求められるのではないかと思います。そういう人たちをつないでいくことによって、魅力の創出につながっていくと思います。

先ほども福祉と教育の分野の連携が大切だと話しましたが、例えば、就学前は母子に対する支援を手厚くしても、学校教育に入ると母子は支援対象ではなくなるということになるので、学校教育の中でも福祉分野でしていたことをつないでいく配慮も必要だと思います。お互いの取組をすり合わせて、共通している部分とそうでない部分をどうしていくか、どうつないでいくか、市民の方とどう協力していくかということが大事だと思います。

【会長】

分野横断的なつなぎによって漏れをなくしていくということもあるし、それ以上の魅力に膨らませるという広がりもあって、そういう裾野を開いていくことが改めて問われていると思います。

【委員】

極端かもしれませんが、子育てしたいという思いを持つ方がどれだけいるのだろうと。現状を見て、子育てできないという方もいると思うのです。生活に余裕がなければ働かなければならないという現状もあります。それをどう解消していくかということをしっかり考えてないと、子育てしたくなるまちづくりは難しいと思います。

【委員】

子育てしたくなるまちづくりは、すごく高い目標ですよね。さきほどシビルミニマムという話がありましたが、私はそこまで高い到達目標ではなくて、子育てしやすいまちづくりぐらいが到達目標でもいいと思います。今できることと、少し頑張ってやることを中心に取捨選択していけばいいと思います。

例えば待機児童対策は、まだ不十分ですので、頑張っていただく必要があるし、学校教育だと、白井市の補助教員制度はすごく良い取組なので、継続して頑張っていただきたいと思います。地域人材活用も白井の一つの取組で、いいことだと思います。逆に無駄な事業はどんどん切っていくという姿勢も見えるので、子育てしやすいために何をするか、何ができるかを見極めていくことが大事だと思います。

【会長】

シビルミニマムは、この地域で子育て、教育を考えたときの必要最低限度の環境保障であったり、施策の充実であったりということです。逆にいうと、それ以上は、市や市民の判断であって、これは行政が税金かけてやるべきこと、これは民間で選択的にやっていくことという見極めをもっと進めていくということです。例えば、部活動をとっても、学校を基軸に充実させていくのか、あるいは学校では必要最低限度にして、部活動に相当することを学校外でできる環境を整えるのかというように、細かな部分まで問われてくると思います。

【委員】

分野横断的にという話が複数の委員からあって、昨年度の外部評価でも、あらゆる施策で分野横断的な連携が必要だと言われていました。それが今ひとつ進まない要因って何なのかなと。従来の行政の縦割りの問題もあると思いますが、どういう環境を整備していけば、他課の人と風通しのいい仕事ができるかということをもっと具体的に考えなければいけないと思いました。

もう一つは、今ひとつ市民ニーズの把握が不十分だと思いました。毎年、市民意識調査などを行っていることはわかりますが、それだけでニーズを把握しきれていないだろうと思います。ですので、調査に予算を使うのであれば、少しマーケティングの視点で、市民がどんな生活を求めているかという調査をもう少し丁寧にやったほうがいいと思います。それによって、こういう人たちにはこういうサービス、こういう人たちにはこういうサービスというように、つじつまのあるサービス提供につながるのではないかと思いますので、市民ニーズの把握が今後の大きな課題だと思います。

【会長】

どういうニーズや、どういう課題があるかということをもっと細かく、もっと実態をあぶり出せるような形で見出していくことが大事だと思いますし、それによって、どういうニーズに、そして、どういうターゲットに、どういう支援をしていくか、さらには行政がどこまで力を入れるべきなのか、行政以外の市民などの力をどう生かしていくかということを戦略的に練っていくということが、すごく大事なことだと思います。

【委員】

教育という観点で言うと、白井の教育が一番いいと言ったときに、白井に行くかというと、正直言って白井ってどこという感じになります。白井って、その前段階なのです。個性化という話がありましたが、やはり知名度をアップして、そこにプラスアルファで教育があればいいのかなと思いました。

【会長】

どう特徴というものをつくり出していけるか、それは言い方を変えれば、子育て、教育というのはステップを踏んでいく中で、子供をこれから将来どう育てていきたいのかということをトータルに見たときに、小学校を卒業して、中学校を卒業して、これからどういう進路を歩むのか、ここに住んでいてどんなステップを踏んでいけるのかなと。今住んでいるところでは自己完結しないから幅広く外に出ていくだろうというときに、今住んでいるところは今後のステップの踏み方の初期段階にあるのだと思います。その初期段階で、どういう環境があれば、いろいろな可能性が将来的に開かれていくのかというところも親は考えるのではないかと、個人的には思います。

そういう将来に向けていろいろな可能性を開いていくに当たって、就学前、小中学校というステップの中で、どのようなものがあればいいのかなと。白井にいるとこういう情報

が得られる、こういうきっかけが得られるということが見えてくると、すごく魅力が膨らんでくると思います。また、個人的な話で恐縮ですが、例えば、学校からいろいろな手紙をもらいますが、その手紙の目線が専業主婦目線なのです。父親目線の情報になっていないから、なかなか前もってイベントの日程の情報が出てこなかったり、仕事をしている場合はどのように参加ができるのかということが見えてこなかったりします。もっと具体的に考えられるような情報提供をしないと、生きた情報にならないので、そういう手紙のあり方一つをとっても教育のしやすさは全然違ってくると思います。大きな話から小さな話まで含めていろいろ見直していくことも、市民ニーズに応えていくということを考えたときには大事な話になってくると思います。

【委員】

最後に、白井はこれから大変だと思います。今の日本の問題は、世代間格差と地域格差で、東京一極集中により地方ではもう望みがないような状況です。私たちが生活しているところは、生活圏と行政圏に分かれると思うのですが、白井は生活圏としては申し分ないと思います。いろいろな買い物もできるし、東京にも近い。

ただ、問題は行政圏で、行政格差が出ると本当に困るわけです。周りの市町村と格差がでないように考えていかないといけません。白井と一番比較されるのは印西で、税収やサービスの比較がされると、印西に子育て世代が転出する状況がでてきてしまいます。

【会長】

ありがとうございました。今後の白井の子育てしたくなるまちづくりということで、さまざまなご意見をいただけたと思います。最低限度の部分をどう充実させていくか、どう市民にとって魅力ある子育て環境にしていけるかということで、非常な貴重な視点からご指摘いただいたと思います。

最終的な評価として、８人のうちＢ評価が５名、Ｃ評価が３名ということで、総合計画審議会としての総合評価はＢ評価とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、子育てしたくなるまちづくりの外部評価としてはＢ評価とさせていただきます。

施策の中身については、各委員からご指摘いただいたように、今の取組としては非常にいい取組をされていると思います。非常に丁寧な配慮がされていて、課題も的確に把握をしながら事業を進めているという点では、非常に高く評価できると思います。たださらにより良くするという部分からご意見をいただけたと思いますので、今日いただいた意見については、事務局を通じてまとめさせていただきたいと思います。まとめについては、会長、副会長に一任していただくということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

（２）その他

【事務局】

本日はありがとうございました。今後の予定ですが、外部評価シートを８月９日までに事務局に提出いただきたいと思います。次回の会議は、10月４日午後１時からを予定しています。次回の会議では、外部評価結果報告書と、今日の意見を踏まえた市の対応方針について報告させていただきます。

なお、後期基本計画の策定状況についてですが、市民2,500人を対象とした住民意識調査が終了し、現在集計作業を行っています。また、９月の下旬に市内６地区でワークショップ型のタウンミーティングを開催し、市民との意見交換を行う予定ですので、報告させていただきます。

【会長】

それでは、戦略１－３子育てしたくなるまちづくりについての評価は以上とさせていただきます。今日、ご出席いただいた職員の方々も、いろいろお答えいただきありがとうございました。評価としてはこういう形でまとめさせていただきましたが、今後に向けて、また意見交換できればと思いますし、さらなる事業の充実に向けて進めていただきたいというのが我々一同の願いですので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上で、会議を一旦閉じさせていただきます。お疲れさまでした。

■第２部■

（１）評価の実施について

戦略３－２　地域拠点がにぎわうまちづくり

【会長】

戦略３－２地域拠点がにぎわうまちづくりの評価に入ります。

総合評価の部分を中心に、委員それぞれの評価について説明をお願いします。

【委員】

私は、全項目にわたってＢ評価としています。職員の方が、通常業務もありながら頑張っていらっしゃるということを含めて、気持ちの上でのＢ評価ということです。

取組状況については、「目標実現に資する取組となっているか」という項目ですが、今後に向けた課題として一つの施策に四つの取組というのが多いのではないかと。もう少し確実に実施したい取組に焦点を絞った方がいいと思います。「市民ニーズに即した取組となっているか」という項目については、地域課題の解決のために地域住民が取り組んでいると思う市民の割合が低くなっていることが気になります。「他分野や市民等と必要な連携が図られているか」という項目については、特にありません。

成果については、「目標実現に向けて成果は上がっているか」という項目は、少しずつではありますが上がっていると思います。「１次評価の進捗状況の評価は妥当か」という項目については、１次評価がやや遅れているとなっており、市民の認識を考えたら仕方がない部分もあるかと思います。

課題や方向性については、「今後の課題等が的確に捉えられているか」という項目は、

的確に捉えられていますが、まちづくりの主体は市民であるということを市民がどれだけ理解しているかということがよくわかりません。「今後の方向性は妥当か」という項目については、まちづくり協議会に関する方向性はわかりますし、妥当と思います。

「市民にわかりやすい記載となっているか」という項目については、まちづくり協議会の名称は、まちづくり条例の地区まちづくり協議会と混同するということがあるので、今から変えるのも難しいとは思いますが、疑問が残ります。

総合評価については、取組が四つありますが、どれも同じ方向性かわからないというコメントを入れてＢ評価にしています。

今後に向けた改善、提案等につきましては、先ほど申し上げましたように、一つの施策に四つの取組は多くて、焦点がぼけていると思います。市民主体のまちづくりという表現は、市民主体のコミュニティづくりとした方が理解しやすいと感じました。

意見交換会のときも申し上げましたが、市民大学校を活用して、市の職員等も講座の内容に応じて随時参加させ、自治会とコミュニティによるまちづくりの必要性を理解してもらうことが必要ではないかと思います。

まちづくり協議会のモデルケースとして、大山口小学校区と白井第三小学校区がモデル小学校区となっていますが、地域の企業とも連携した白井第二小学校区の取組が非常に参考になるのではないかと思いました。

また、地域包括支援センターを中心に各地区のサロンとのネットワークができているようで、できていないと思います。白井市内をＡブロック、Ｂブロックの二つに分けて、サロンのネットワークはあるようですが、横の連携ができていないような気がします。

【委員】

取組状況で、「目標実現に資する取組となっているか」という項目は、安心で快適な生活をするための住民相互の助け合いを進める上で必要な要素は取り組まれていると思ったのでＡ評価としました。「市民ニーズに即した取組となっているか」という項目はＢ評価にしました。防犯、防災に関して市民の要望が高く、さらに取組状況を改善して、充実するように進めてほしいと思います。「他分野や市民等の必要な連携を図られているか」という項目はＢ評価です。課題解決のための会議を定期的に開催したり、情報交換、研修などをされていることは評価しますが、市民に伝える取組をしてほしいと思います。

「成果」に関して「目標実現に向けて成果を上がっているか」という項目はＢ評価です。まちづくり協議会の設立に向け、地域の対する積極的な関与に今後期待したいと思います。また、サロンの立ち上げ姿勢は評価できるのですが、その後の支援については、私自身は確認できておりません。「１次評価の進捗状況の評価は妥当か」という項目について、安心に暮らせる地域であると思う市民の割合が目標値に届いていないのはそのとおりだと思いますので、Ｃ評価としました。

課題と方向性について、「今後の課題、問題点が的確に捉えられているか」という項目

はＡ評価にしました。まちづくりの主体は市民であることを踏まえ、住み慣れた地域で生活が安心に結びつくような環境の整備に期待しています。「今後の方向性は妥当か」という項目もＡ評価にしました。自主防災組織への支援制度の設立の検討という取組がありましたので、ぜひこれを進めてほしいと思います。

「わかりやすさ」はＣ評価です。まちづくり協議会について、モデル小学校区以外の市民には広報のみの情報しかなく、十分浸透しているとは言えないので、市民にわかりやすい説明を期待したいと思います。

総合評価はＢ評価にしました。評価できる取組もありますが、市民生活に十分沿っているとは思えない面もあります。

今後に向けた改善提案は、まちづくり協議会の土台となる自治会を見直す必要があって、自治会の必要性をわかりやすく市民に説明する努力が必要ではないかと思います。サロンの立ち上げを支援していますが、サロンの数を増やすだけではなく、年に１回でも市職員が協力して、サロンの中で自治会の必要性などをわかりやすく説明したり、市民の要望を聞くなどの努力をしてほしいと思います。

最後に、防災訓練に関して、消防署に来ていただいていますが、４月に要望を出しても、日程について消防署からなかなか連絡がいただけません。市の行事の関連があるということですが、もう少し市が早く提示していただければと思います。

【委員】

地域拠点がにぎわうまちづくりという戦略は、まだまだであると感じております。まだまだというのは、これから取り組んでいくという状況であると判断をしております。その中でほとんどＣ評価としました。

Ｂ評価としたのは、「１次評価の進捗状況の評価は妥当か」という項目で、進捗状況としてやや遅れているという１次評価は妥当だということでＢ評価としました。また、「今後の課題、問題点は的確に捉えられているか」という項目で、課題や問題点は、評価シートで取り上げているとおりだと思いますし、「今後の方向性は妥当か」という項目については、具体的に、どういうプロセスで合意形成をどう時間をかけてやっていくかということが今後議論されるべきと思いますが、基本的な方向性としては妥当だと思います。

【委員】

私は、総合評価はＣ評価としました。理由ですが、指標の実績値が悪化しているということで、目標実現に資する取組方法ではないと感じています。「今後の方向性は妥当か」という項目についても、以前の質疑応答から、どういう戦略で最終的にまちづくり協議会が運営されるように算段しているのかということが読みとれなかったのでＣ評価としました。

今後に向けた改善提案等については、この施策で大きいのはまちづくり協議会のことだと思っていて、それがきちんと回っていけば、自然にそこは居場所になるし、地域拠点に

もつながっていくので、要になる部分だと思います。そこで、まちづくり協議会が自主運営される、あるいは市民主体のコミュニティづくりが完成するということがゴールだとしたら、いきなりファシリテーションとか、市民が主役といったところで何も進まないと思います。階段を一個一個上っていって、認識するというところから現状を分析して、自分たちで計画を立て、それをモニタリングして、最終的に法人化するという段階があるとしたら、今階段の一歩目だと思うので、一個一個上っていくために市がどういう支援をしなければならないのか、ぜひ専門家を入れて考えたらどうかと思います。初めの立ち上げには時間がかかると思いますが、きちんとしていただきたいなと思います。

まちづくり協議会の設立は、特に市民側の強いニーズがあって計画したというより、市役所として今後の白井のマネジメントを考えたときに、市役所だけではできないことが多いということで、どちらかというと市役所側のニーズが強いものだと思いますので、そのぐらいのことをされたほうがいいと思います。

また、そのためのスキルをきちんと市役所のまちづくり支援チームが持てるようにやっていただきたいと思います。ファシリテーション講座を１日でされているということでしたが、１日でできるファシリテーションの講座は、会議を黒子としてどう進めるかという話であって、いわゆるコミュニティデザインのファシリテーションはそれとは全然違うものなのです。ファシリテーションのスキルと、コミュニティデザインの知識と、地域の皆さんが持っている知恵が重なり合って初めて車が動いていくと思いますので、いろいろな課が複雑に絡み合って、まとめるのが大変だと思いますが、きちんと立ち上げて、立ち上がったら手を離すという形がいいと思います。

【委員】

総合評価はＣ評価としました。取組状況について「目標実現に資する取組となっているか」と「市民ニーズに即した取組となっているか」という項目はＣ評価にしました。例えば、市民大学校やまちづくり支援チームなどのそれぞれの取組は良いと受けとめたのですが、そういった取組がより連携するような工夫が必要だと感じました。さらに、例えば市民大学校で方向性を模索しているようですが、本当に三、四十代をターゲットにしていいのかという市民ニーズの把握が必要だと受けとめました。「他分野や市民等との連携が図られているか」という項目は、市民等との連携という部分では、Ｂ評価としています。成果と課題、方向性については、多くの項目でＣ評価としました。これは、今立ち上げたものがほとんどで、今後、どうなるかというところで期待を込めてちょっと辛口の評価としています。

自分の中でも整理をしないといけないと思っていることが、この施策は一つは人を育てる取組と、もう一つは箱物とまではいきませんが、仕組み、拠点をつくる取組の二つに大きく分かれると思いました。例えば、まちづくり協議会のように仕組みをつくることに関しては、今着手したばかりではありますが、方向性としては良いのかなと。問題は、人を

育てるという部分で、果たして適切な人材に行政側がアクセスできているのかというターゲティングの部分で見直しが必要ではないかと思いました。ということで、施策の総合評価はＣ評価ですが、全体的に足踏み気味ということと、いろいろと活動している事業の棚卸的なことをして横並びにして整理するという作業が必要だと思います。

今後に向けた改善提案等については、この戦略だけではないのですが、業務体系の見える化、ロジックモデルをつくった方がいいということが一つです。もう一つは、先ほどの施策でも申し上げましたが、果たして本当に市民ニーズに見合った施策になっているかということで、ニーズ把握をしていく必要があると感じています。

【会長】

私のほうから最後に、個人的な評価を申し上げると、大変厳しくつけておりまして、総合評価はＣ評価にしました。

これまでいろいろな事業の説明を聞いたり、質疑応答やワークショップを重ねながら、職員の方々の努力は十分理解しているつもりですが、一つは、客観的に見て、進みが少し遅いという印象があるということと、巻き込み方もやはり弱い部分があると思います。

個別に申し上げると、「目標実現に資する取組となっているか」という項目についてはＣ評価です。一つは、取組目標で、小学区単位での地域特性で、魅力ある地域づくりを進めるということと、各地域の交流の場、サービス提供の場をつくっていくということが挙げられていますが、よく見てみると、取組１から取組４がどれぐらいつながっているのかというと、実はきれいにすみ分けられているのではないかという印象を率直に受けました。つまり、それぞれ担当部署があって、それぞれが連携、協力ということはうたわれていますが、前回も質疑応答の中で申し上げたように、例えば、生涯教育と地域づくりがどれぐらい連動しているのか、そういう動きと生活支援や居場所づくりがどれぐらい融合しているか、それがさらに小学区単位の横のつながりという動きとどう連動しているのかと。小学校区単位の取組は市民活動支援課を中心に、そのほかの事業はそれぞれの担当部署で展開し、緩やかに地域における連携がうたわれていますが、分野ごとの連携という頭でいるならば、多分地域の現場は混乱する一方だと思います。それぞれの担当部署が、地域の連携が大事だと言っているわけですが、地域からすれば、どういうふうにそれを受けとめていけばいいのか。結局、市役所の中で横にどれぐらい結びついているのかというと、すみ分けられるという印象が率直にあります。ですから、具体的な取組という部分で、取組１から４が結びついていないという印象があったということでＣ評価にしています。

「市民ニーズに即した取組となっているのか」という項目については、前から指摘をされているように、まちづくり協議会が市民感覚の中でどういうふうに受けとめられているかという部分は、引き続き掘り下げが必要だと思います。既にまちづくり支援チームがつくられ、準備会がつくられて、二つのモデル小学校区では一定の動きが始まったところですし、第二小学校区ではまた違う枠組みの中で動きが進んでいるということもありますの

で、そういう中で、いろいろな声が聞こえてきている段階だと思います。これを今後どう深掘りをしていくのかということが課題ではありますが、ニーズに即したという部分については、まだまだのところもあると思います。一応評価としてはＢ評価にしていますが、そうした課題が残されていると思います。

それから、例えば、生活支援サービスについても基本的に、高齢者福祉という視点で市民、ＮＰＯなどによる多様なサービスをコーディネートする生活支援コーディネーターを配置しているということですが、この生活支援も、もちろん分野ごとに切りとって捉えるということもありますが、実際の市民生活の中では、高齢者福祉だけで切りとられるものではなくて、いろいろな側面が入り混じった生活実態の中で、個人や家庭が抱えている問題にどう応えていくかということが問われてきますし、市でそういうコーディネーターを養成して、配置して、いろいろな相談窓口や支援機能をつくったとしても、その取組が当事者にどこまで届いているのかという検証をしなければ、事業のブラッシュアップにつながっていかないと思います。そういう意味では、どういうところが届いているのか、どういうところが届いていないのか、例えば、相談機能一つをとっても、相談できている人もいるけれども、できていない方々もいるわけで、そうした溝をどう埋めていけるのか。各方面の連携というのは、そういう溝を埋めていくことが一つのターゲットになるはずなのです。とすると、そういうターゲットに焦点を合わせて、行政はどういう取組をしていくべきか、あるいは、どういうことを市民活動団体等がなすべきことなのかという検証をどんどん重ねていかないと、それぞれが「こういうことやっています」と言うだけでとどまっている限り、連携は進んでいかないと思います。そういうことも含めて、「他分野や市民等との連携が図られているか」という項目はＣ評価にしました。

次に、成果については、なかなかすぐに成果が出るものではないと思いますが、「目標実現に向けて成果は上がっているか」という項目については、１次評価の進捗状況等も踏まえてＣ評価です。もちろん、例えば小学区単位の取組であれば、準備会やまちづくり支援チームなど少しずつ動きは始まっているし、遅いとはいえ、確実に取り組んでいるという部分は高く評価はしたいと思います。しかし、いろいろな活動の横のつながりをつくっていくということは、どうしても既存の単位と横のつながりとの摩擦が出てくるので、単に必要だというところから入っていくのではなくて、既存の取組の洗い出しや、単独の団体でできていること、できていないことを丁寧に洗い出していくというプロセスを、準備会でもっと積極的に進めていく必要があると思います。

課題、方向性については、「今後の課題、問題点が的確に捉えられているのか」と「今後の方向性は妥当か」という項目はＢ評価にしました。長期的に見てどんな制度設計にしていくかべきかということを描き切れていないところはあるとは思いますが、短期、中期的な視点で何をしなければいけないかということは把握されていると思いますので、引き続き取組を進めていただきたいと思います。方向性についても、具体的なステップをどう

いうふうに踏んでいくのか。そのステップの踏み方も、それぞれの地域に見合ったステップの踏み方というものを整理して、ロードマップ化して見えてくると、住民は乗りやすくなってくると思います。今向かう先が曖昧な部分もあると思いますので、その点も検討いただいた上で進めていただきたいと思います。

「わかりやすさ」についてはＢ評価とし、結果的に総合評価はＣ評価としました。

全体として見て、地域における連携は世代の連携、分野の連携、組織の連携いずれにも当てはまってくることだと思います。そして、四つの取組は、そもそも論で恐縮ですが、この重点施策に横並びに位置づけることに無理があると根本的に思っていて、後期基本計画づくりでは、そこまでは踏み込めないかとは思うのですが、イメージとしては、地域の拠点づくりは、どの分野にも共通する横串だということです。地域拠点の在り方というのは、子育てや、経済の活性化、農業など、どの分野にも通底する基盤であって、こういう基盤があってこそ、それぞれの魅力が開かれたり、いろんな動きがつながったりということになりますので、市全体として横のつながりというのを本格的にどうつくっていくのかという課題を秘めた問題であるということを指摘しておきます。

ということで、委員の皆さんの評価結果を伺いましたが、委員６名中、総合評価はＢ評価が２人、Ｃ評価が４人ということです。総合計画審議会の最終的な総合評価を固める前に、意見交換できればと思います。

【委員】

今、委員の皆さんの話を聞きながら、私がコメントを入れた部分については、ある意味ほとんどＣ評価ではないかと考えております。「今後の課題、問題点が的確に捉えられているか」については、まちづくりの主体が市民ということがどれだけ理解されているかという意味からすると、これもＣ評価です。

そういった意味で、総合評価についてもＣ評価にします。

【会長】

もし評価変える場合は、ご指摘いただければと思います。また、今後に向けての提言も含めて、ご意見等をいただければと思います。

【委員】

ほかの地域でのまちづくり協議会などを見に行っていると思いますが、協議会がどう動いていくかというだけではなくて、市が初め主導して、だんだん手を離して、うまくいったというケースがあれば、でき上がるまでに市役所がどう動いたかということと、それによって、協議会がどう育っていったかということの両方を見ることが重要だと思います。そういうことがわからないと、まちづくり支援チームの方も難しいと思うし、準備会に手を挙げてくださった方々も、せっかく協力したれども、何だか市役所から責任だけ振ってきたと思うのではないでしょうか。

また、第三小学校区に関しては、一つ一つポストイットに自分がやっていることを書い

て、どこの地域でやっているかを地図に張っていくと、重複があったり、誰も入っていない地域がわかったりすると思います。大山口小学校区はどうなのですか。

【委員】

大山口小学校区の自治会の運営を見ると、役員が毎年変わって、一緒にやる仕事自体が大変やりにくいという意味では、各自治会ももう少し仕組みを変えてもいいのではないかと。正副みたいな形で全員が変わるのではなく、継続性に地域づくりを目指していくという意味で。各自治会を補うものとして、まちづくり協議会の準備会が既に活動を始めたわけですが、これを推進していくことによって、各自治会の機能として足らない部分を補っていけばいいと思っています。

ただ、役員になって感じることは、同じ自治会の中にいろいろな役員をやっている人たちがたくさんいるのだなと。最初から自治会長を引き受けるときに、民生委員や交通指導員としてこういう人がいるという名簿があると、最初から役員会のオブザーバーに来てもらうこともできると思います。

また、加入率も大変低くなって、どう加入率を上げるかが課題です。役員が回ってくるとやめてしまう方が多いので、輪番制ではなくて、みんなで支え合いができるような自治会にしていきたいし、そうあるべきではないかと思います。

【委員】

自治会が防災訓練も防犯も全てやらなければいけないということではなく、それが分けられると、負担が軽くなるというイメージで、私はまちづくり協議会ができると思っています。第三小学校区では防災連合をつくりましたよね。そういうものをつくって、自治会がお祭りをして、防災連合が防災訓練をするというようにお互い連絡をとり合いながらダブらないように形を作っていくことが必要だと思います。

【市民活動支援課長】

現在、大山口小学校区と、第三小学校区両方で、準備会の構成団体がどういう個々の活動を行っているか検証する段階です。さらに、モデル小学校区にお住いの地域住民800名ずつの方々からアンケートをとって、地域の課題がどう捉えられているのかをしっかり検証して、アンケート結果と個々の団体の活動内容を全部融合して、まちづくり協議会が取り組んでいくべき事業を位置づけしていきたいと思っています。

【委員】

地域の課題というときに、例えば、桜台地区は（仮称）谷田・清戸の森までを含めて自分の地区だと思って、課題を上げないと思います。地域課題って認識されやすい課題と、重要だけど隠れた課題というのがあって、それが両方掘り起こされていく必要があると思います。地域住民も大事ですが、テーマごとにその地域で活動している方々が入ってきやすいようにできないかと思います。

【委員】

何か具体的なステップをどうするかというところから、行政と市民がどう関わったらいいかかという話ですが、うまくいくところがどういう役割分担をしているかというと、そこに住んでいる人たちでも認識していない客観的な事実もあって、具体的にはその地域でどのぐらい病気になっている人がいるとか、高齢化率がどのぐらいとか、客観的なデータを市民に提供していくことで新たな気づきが得られて、自分たちの主観的な視点もあって、それを見える化する作業を行政がしていく必要があると思います。

アンケートも、そういう意味では見える化ですし、一方で、市民の方が言っていることを見える化していくこと、そして地域にどういうリソースがあるのかを見える化していくことも行政に必要な作業だと思いました。

【委員】

まちづくり協議会を考える場合は、大山口では七つの自治会で大山口支部をつくっていますが、支部に入っていない地域もあります。支部は主体的に自治会の連合として構成しているのですが、全く自治会がないところにも子供たちがいて、学校へ通っているのも事実です。そういう意味では、まちづくり協議会は、行政からのかなり主導的な部分も必要だと感じております。

【委員】

Ｂ評価にしましたが、一つ一つを見てみるとやはり不満はあります。市民が主体ということが漠然としていてわかりづらいということもあり、もう一度考え直したいと思います。先ほど、防災連合という話がありましたが、初めて聞いたのですが。

【市民活動支援課長】

冨士地区では、個々の自治会に自主防災会があって、その横の連携ができていないということがあったので、地域の方々から防災の連合組織をつくったほうがいいのではないかという発案があって、意思形成できたのですが、そこにどういう方々を入れてつくるかという部分が、まだでき上がっていない状況です。

【委員】

質問ですが、今モデル小学校区は二つありますが、モデル小学校区同士の交流はあるのですか。

【市民活動支援課長】

今現在はないです。これから実際にまちづくり協議会が設立される段階になると、横の連携や互いの情報交換は必要だと思いますが、まだ現段階ではそういったことはありません。

【委員】

提案ですが、それぞれのコミュニティは連合をつくることによって強くなるという、いわゆるコミュニティエンゲージメントということが言われていて、それぞれ立ち上がりつつある地域だから、ほかの地域でやっていることを知って、一方で自分たちは、ほかの地

域やっていないことをやっているということを知って、持ち帰って、今後の活動に生かしていくという循環が大事だと思うので、地域同士の交流は、積極的に進めていくといいと思いました。

【委員】

将来的にも、まちづくり協議会連合会というのができるのでしょう。それをつくらないと意味がないと思います。そういう横の連合会ができるようにしないと、市が考えている市民が主体ということにならないと思いました。

清水口地区は、まちづくり協議会についてはなかなか進展していないのですが、団地ができた当時、七つの自治会ができて、それらで防犯グループをつくっています。今全部で１３の自治会がありますので、六つの自治会が一緒になれば、まさしく防犯会ができるのです。防犯会は何するかというと、小学生を守るためにはどうしたらいいかということをお互いに研究し合うのです。それからホットスポットといって、危険が潜んでいるところを目視するということも今やっていますので、そのまま発足させていければ、まちづくり協議会の防犯という一つのコアになると思っています。

【委員】

横浜の西戸部地区にまちづくり協議会があるのですが、防災、防犯がコアになって、それがだんだん子供食堂に広がったり、お年寄りの見回りに広がったりするので、一つ課題を置いて取り組んでいくといいと思います。

また、コミュニティづくりに、外部者の役割はとても大事なので、例えば、市役所に地域おこし協力隊のような方を１人入れて、その方に地区に入っていただくことができないかと思うのですが。

あと、地域の課題として福祉、子育て、防災、防犯が挙げられていますが、防〇〇ということは大事で、例えば、防孤独死、防虐待というようなアプローチが初めのきっかけとしてはすごく有効かなと。指標を見ると、安心して暮せる地域であると思う市民の割合が減っていて、私も親として不審者情報が提供される回数が増えていると思うので、そういうきっかけであればＰＴＡの人たちも関心を持って、一緒にやってみようと思うのではないでしょうか。

【会長】

橋本委員が遅れて来られたので。今、お一人お一人評価を伺って意見交換しているところです。橋本委員の評価についてお話を伺いたいと思います。

【委員】

遅れてすみませんでした。

取組状況については、設定した目標に向かっての取組自体は、私は一歩一歩進んでいるように感じており、「目標実現に資する取組となっているか」という項目については、評価に値すると思っています。

ただ一方で、「市民ニーズに即した取組となっているか」という項目については、先日の会議のときも言いましたが、市民との本音ベースで、膝と膝を突き合わせた話ができているかという点で、まだまだニーズの掘り起こしが必要だと思います。同時に、市民団体ができること、できないことを棚卸して、一方的に押しつけるのではなく、それぞれが能動的に考える形でやっていく必要があって、そのためには信頼関係が大切だと思いますので、市民と行政の間の齟齬をなくすため、小まめに市役所の職員の方が地域に足を運んで、顔見せて話を聞くという、当たり前で大変なことかもしれませんが、それが事業を円滑に進めることにつながると思いました。

成果については、「目標実現に向けて成果が上がっているか」という項目はＣ評価です。取組自体はさっき言ったように、少しずつ進んでいるような気がするのですが、成果という部分に関してはまだまだこれからだと思いますので、スピード感を持ってやっていただければと思います。

「課題、方向性」については、Ｂ評価としました。まちづくりの主体は市民ということで、市民の役割や協働を拡大する方向性には、個人的には賛成です。ただし、現状として、声の大きい人の声しか聞こえなかったり、不満がありながらも積極的に参加しない方もいるし、そもそも関心がないという方もいて、市民がどうまちづくりに関わればいいのか、どう声を上げたらいいのかなという方法を行政から提案していただくことも大切だと思いました。

「わかりやすさ」については、Ｃ評価としました。情報発信の面で同じ世代に情報が届いていないということが実感としてあって、情報がストックされていないとか、どこに見に行ったらいいかわからないという部分もあるので、できれば、ダイレクトに声が届けられるようなツールの利用をお願いしたいと思います。30代、40代の職員から同じ世代に発信していただく取組があってもいいのかなと。もちろんネットリテラシーなどについて勉強しなければいけませんが、他市町村でも見かける事例なのでぜひお願いしたいと思います。

以上のことから、総合評価は、Ｂ評価としました。

【委員】

質問ですが、以前、住民参加の分野でＪＩＣＡの研修生を受け入れていたという話を聞いたことがあります。以前、白井市の中にもそういうムーブメントがあったのでしょうか。

【健康子ども部長】

ＪＩＣＡの件ですが、直接、市の事業でやっていたということではなく、国際交流協会の活動の一環としてＪＩＣＡの研修生をホームステイで受け入れていたという記憶があります。

【委員】

平成５年から厚生労働省で始まった健康文化都市構想というもので、白井でも当時の市

長が健康なまちをつくることが公約だったので、白井が手挙げして補助金をもらっていたときに、ブラジルでも同じような事業をやりたいというところがあって、そのつながりで交流ができて、研修生が来たと聞いています。

【企画政策課長】

少し補足をさせていただくと、当時のＪＩＣＡのテーマが健康のまちづくりということで、それをブラジルで起こそうというプロジェクトの中で、白井市が、当時、健康文化都市ということを掲げて健康なまちづくりに取り組んでいたため、ブラジルの研修生が毎年毎年来て、数年間研修の一部を白井で受け入れて対応していたということがありました。ブラジルの政治家のグループやファシリテーターのグループなど、年度によって来る方が違ったのですが、それに応じた形で、白井からプログラムを提供したことがありました。

【委員】

それも一つの住民主体ですよね。過去には、ちょっと盛り上がりがあって、今はないという状況があるときに、何が国外に発信できることとして提供されていたかということをもう一回振り返ってみてもいいのかなと。白井市役所の方はまじめだと思っていて、やることをやってきているので、過去のことを再認識してみるということもいいのではないでしょうか。

【会長】

最後に、一つ伺いたいのですが、コミュニティや横の連携は、それぞれの部署で考えられて動いていると思いますが、そういう地域の横の連携づくりということが、市役所全体の中でどのようにトータルに捉えられ、位置づけられ、関連づけられているのか。例えば、個々の自治会、個々の活動団体から各種連合体単位、小学区単位、それから分野的な連携など、いろいろなレベル、規模の横のつながりが既にあって、また、これからつくっていきたいということがあると思うのですが、どれぐらい交通整理されているのか。これは別に白井だけに限らず、どの自治体でもかなり混乱しているという印象があって、混乱しているまま、それぞれが横のつながりや地域拠点づくりが大事だという動きをしているから、地域住民はもっと混乱しているという状況がずっと続いているという印象があります。全部を一緒にする必要はもちろん全くなくて、コミュニティはもっと重層的なものですし、いろいろ有機的なつながりの中で生きてくるものだと思うのですが、そのあたりの捉え方は現段階でどのような状況で、今後どうしていくつもりなのかということを教えていただけますか。

【総務部長】

市役所の中のコミュニティとしては、それぞれの部や課があって、基礎単位としては課です。ただ、重要課題や今後の方向性を探っていくという中では、現在、横串のプロジェクトチームをつくって検討していくということもやっています。

プロジェクトチームについては、担当職員や関係職員が集まるだけではなく、もう一歩

先に進めて、発令を伴うプロジェクトチームとしています。そういうことで、総合計画となどをつくっていく中で、市役所の中での横の関係をどうやってつくっていくかという部分は大切だと思いますので、そういったところを足がかりにしながら進めようとしているところです。

【会長】

それぞれの部署で、協働や連携する相手方として、いろいろな団体や地域コミュニティというものを想定されていると思うのですが、そこも整理しきれていないところがありますし、例えば小学校区単位のまちづくりでは、関連する部署はかなりあるので、それぞれの部署で小学校区単位のまちづくりがどんな意味を持っていて、どんな可能性があって、それぞれの計画や事業とどういう関わりを持つのか、どう活用すれば自分たちの事業が生きてくるのかという検討や検証はされているのでしょうか。

【市民環境経済部長】

そこまでできていないというのが実態です。以前の経験で言いますと、例えば、保健や健康分野の職員が先に地域に入っていって、小学校区単位のまちづくりの面が後追いみたいな感じに入っていったので、地域の方は、前にやったのにまたやるのかということをストレートな話として聞いています。

また、職員間の認識の共有について、いろいろな形でアナウンスはするのですが、やはまちづくり協議会ができることによって、この施策がどういう形で生きるのか、他の施策とどう連携がとれるのかということは、今後、大きな課題として解決していかなければならないと考えています。

【市民活動支援課長】

市民活動支援課の事務分掌に、小学校区単位のまちづくりの推進に関することを入れております。以前はそれが全くなかったのです。これから小学校区単位のまちづくりを進めようとするからには、きちんと位置づけをしないといけないということで入れています。ですので、市民活動支援課が主管課ということで、小学校区単位のまちづくりを進めているということなります。

先ほど、部長から話があったように、当時、地域包括支援センターが、国の施策によって、小学校区ごとにいろいろな取組をしていかなければいけないという話があって、早くまちづくり協議会をつくってほしいという話があったのですが、なかなか進みが悪くて、健康課や高齢者福祉課が先行して地域に入っていったこともあって、何でまた同じようなことをやるのかという話が出ているというのは、確かに現実でございます。

【会長】

そういう部分を乗り越えていかないと、なかなか横のつながりや地域拠点のあり方ということは、混乱が続くことが懸念されます。既に動き出しているもの、あるいはこれからつくり出そうとしているもの、そして事業フレームで子育て世代包括支援センターなどの

いろいろな動きが出てきています。これも国からおりてきたモデルを当てはめることと、地域の実情に応じて形をつくっていくことでは、多分相当ずれるはずです。そういう部分もすり合わせていかないと、本当に地域に根差した内発的な動きをつくり出していくことは難しいと思います。その点は、今後の後期基本計画策定の中でもちょっと意識していただきたいと思います。

ほかに特にないようでしたら、最終的な評価として、７名のうちＢ評価が２名、Ｃ評価が５名ということで、総合計画審議会としての総合評価はＣ評価とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ただ、申し上げておきたいのは、これまでこの施策をめぐる質疑やワークショップ等を経ながら、今どんな取組をどのような形でされているかということは、我々委員もいろいろ理解できましたし、現場の中で職員の方も非常に熱心に活動されているということも我々委員はよく理解したところだと思います。その中で、もっとよりよくするためにどうすればいいのか、あるいは、まだ射程に入ってきていない課題を今後どうしていく必要があるのかという点で、いろいろ厳しいご意見もいただいたところです。今日いただいた意見については、事務局を通じてまとめさせていただきたいと思います。まとめについては、会長、副会長に一任していただくということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

（２）その他

【事務局】

本日はありがとうございました。今後の予定ですが、外部評価シートを８月９日までに事務局に提出いただきたいと思います。次回の会議は、10月４日午後１時からを予定していります。次回の会議では、外部評価結果報告書と、今日の意見を踏まえた市の対応方針について報告させていただきます。

なお、後期基本計画の策定状況についてですが、市民2,500人を対象とした住民意識調査が終了し、現在集計作業を行っています。また、９月の下旬に市内６地区でワークショップ型のタウンミーティングを開催し、市民との意見交換を行う予定ですので、報告させていただきます。

【会長】

予定されていた議題は以上ですので、これをもちまして第４回白井市総合計画審議会を終了します。どうもご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。